

さっぽろ 東本願寺

No,241

2025 7月号

行事報告	01
雲龍柳	02
今月のことば	03
お寺さんに聞いてみよう	04
門徒のおしごと	05
ひがほんっ子だより	06
法話 伊藤 孝順	07,08
無盡蔵	09
連載 近代の教学者	10
すすきの探訪ツアー	11
共生	12
おしらせ	13,14

宗祖親鸞聖人御誕生法要・初参り式・花まつり

園児と共に賑々しく勤まる

5月2日、札幌別院本堂に於いて、「宗祖親鸞聖人御誕生法要・初参り式・大谷幼稚園花まつり」が厳修された。

当日は初参り式に5名の乳幼児が、花まつりには57名の園児が参加し、園児のご家族の方々と共に宗祖の御誕生法要をお勤めした。

法要は昨年度同様に午前と午後の2部制で行われ、午前の部で行われた初参り式では、受式した子どもたちも家族と一緒に本堂内陣に入って頂き「行道散華」が行われた。法要後には坂田輪番

より初参りのお祝いとして、念珠や色紙などの記念品が授与された。

また、花まつりでは華やかな稚児衣装を身に纏った園児が、誕生仏に甘茶を掛ける「灌仏」と「遊戯」が行われ、園児たちは元気いっぱい踊りを披露し、皆で仏歌を唱和した。引き続き、坂田輪番よりお言葉を頂き、最後に別院職員より札幌別院の御堂についての説明がされた。

今年の御誕生法要も大勢の参加があり賑々しく無事に勤まった。



櫻井 真心 さん



萩原 千冬 さん



寺本 菜々子 さん



一力 遙 さん



安本 和奏 さん

坊主めくり



私は美唄市の法輪寺というお寺で生まれ、住職である父の背中を見て育ってきましたが、これまで、僧侶という職に就く自分というものを想像せずに生きてきました。

しかし住職の勤めもあり、昨年1年間京都の山科にある大谷専修学院にて仏教及び真宗の教学や儀式作法を学んで参りました。そこで私が受け取った真宗の教学とは、普通の真実を映し出してくれるものであります。そして真実からは目を背けたくなる私をこそ受け止めてくれるものです。私がこの別院に奉職したきっかけにはこの真宗の真実性、普遍性を多くの人と共に感じたいという思いがあります。

ちなみに趣味は音楽鑑賞とオンラインゲームです。どうぞよろしくお願いたします。



かなうら じょう
金浦 乗
2002年1月15日生まれ

永代経法要・物故者追弔会の報告

6月7日・8日の日程で「永代経法要・門徒物故者追弔会」が勤修された。法要は一般参詣者に加え、2023年4月より今年3月末までの物故者のご遺族の方々、そして過去10年間で永代経を御進納されたご門徒がお参りをされた。

法要では本堂内に物故者の法名記パネルが掲げられ、読経中には参詣者は前に出て焼香し、静かに手を合わせていた。また、正信偈に入ると一同声が揃った勤行が本堂全体に響き渡っていた。

法要後は講師に三重県西願寺の渡辺誉氏を迎え、「弥陀回向の法」を講題に法話を頂いた。(法話要旨は9月号に掲載予定) 2日間で延べ127名の参詣があり、真剣な眼差しで聴聞されていた。

また、8日は「ひがほん暮らしの朝市」が初開催され、境内が来客者で賑わった。



▲読経中に焼香をするご門徒



▲ひがほん暮らしの朝市 境内の様子

雲龍柳

うんりゅうやなぎ

いよいよ北海道にも夏がやってきた。ひと昔「夏は北海道、冬は九州」と言ったものであるが、^{たゞ}滾るような暑さに襲われそうで、もはやひと昔の北海道ではない。地球温暖化沸騰化はどんな世界に辿り着くのであろうか。将来への不安は一層増すばかりだ▼今年6月より刑法が改正され、懲役刑と禁錮刑を一本化して拘禁刑とし、受刑者の特性や更生の必要性に応じて柔軟に対応するとのことだ。人権意識が浸透して人の尊厳性がより重たく考慮されるのはごく自然の成り行きであろう。何よりも大切なことは、どんな事情があるにせよ、人に対して偏^{へん}頗^ぽなきことである▼「世界で一番貧しい大統領」として知られたウルグアイのホセ・ムヒカ元大統領が、5月13日亡くなった。2012年リオの国際会議で「貧乏とは、少ししか持っていないことではなく、限りなく多くを必要とし、もっともつとほしがることである」「人と人が幸せな関係を結ぶこと、子どもを育てること、友人を持つこと、地球上に愛があること・・・こうしたものは、人間が生きるためにぎりぎり必要な土台です」と演説し大きな拍手が沸き起こったことは記憶に新しい▼先般、津軽三味線を聴く機会があり、耳に覚えがある「北国ならでは」の音色の凄さを彷彿させる感動を覚えた。歌川国芳展は一つの作品から想像できる世界を堪能した。歴史をくぐり伝統されてきたものには固有の深みと味わいがあり、自己固執を離れぬ人間を解きほぐし共感を繋いでくれる。実に心地よく、音楽・美術、芸術との新たな出会いのきっかけになってくれそうである。

(坂)

今月のことば

ありがとうの
反対語は
当たり前

子どもがまだ小さい頃、夏休みになると妻が子どもたちを連れて実家に帰省することがあった。そうするとしばしの一人生活になる。普段、家事は妻に任せきりにしている私にとっては、家事というものが一大事になってくる。食事に関していえばコンビニや外食等でどうにかはなる。掃除は気を付けていても部屋が自然と散らかってしまうので数日おきではあるが片付けが必要になってくる。最後に洗濯なのだが、脱水までは洗濯機がやってくれる。そこから洗濯物を干して、乾いたら取り込んで畳む。なんて手間のかかる家事であろうか。私は子ども4人の6人家族。いつも妻が家族全員分の家事を担ってきた。三度の食事に部屋の片付けや掃除。洗濯は一日に数回しないと間に合わない。そう考えると初めて妻に頭が下がる思いをした。

私たちは日常が日常ではなくなった時に初めて気づかされることがある。「ありがとう」を漢字にす

ると「有り難う」。「有る事難し」という意味である。その反対語は「有るのが当たり前」ということになる。私たちは目の前の出来事を「当たり前のことである」と考えていると、驚きや感動、感謝の心は決して生まれてこない。一方で「さまざまなご縁によるおかげさまであり有難いことである」と考えることができると、周囲に対する感謝の心が生まれてくる。「当たり前はひとつもない。すべてが有難い」と教えるのが仏教である。

延塚 圭太



お寺さんに

聞いてみよう!

赤い蠟燭?

Q.

どうしてお勤めによって蠟燭の色が違うのですか。

A.

真宗大谷派では儀式によって朱(赤)・白・金・銀の4色の蠟燭を用いており、主に弔事と慶事によって使い分けをしています。

葬儀や中陰から満中陰(49日)などの弔事儀式では、派手な打ち敷やお花を飾らないのと同様に、蠟燭も銀色もしくは白色を使用します。これらは故人に対する悲しみの気持ちを表現したものであります。

そして、報恩講や法事などの慶事儀式では朱(赤)色の蠟燭を使用します。朱(赤)蠟が法事に用いられる理由としては諸説があります。紅白という言葉があるように、昔からめでたい色とされてきたことがあり、また古くに赤、朱は貴重な色、尊い色ともされていきました。仏事においても亡き人をご縁として、私たち一人ひとりが仏様の教えに触れ、南無阿弥陀仏とお念仏を申す身になった事の喜びが表現されているのではないのでしょうか。

また、金色の蠟燭は仏前結婚式や落慶法要(寺院の新築・再建築・大規模改修の際の儀式)等、一生に

一度あるかないかといった貴重なご縁の仏事に使用します。因みに何も無い平常時には木蠟といい、朱蠟を模った木製の蠟燭の模型を飾っておくことが基本とされています。

一般のご門徒の家庭では普段のお参りの際には白色の蠟燭が使われていると思いますが、故人の祥月命日やご法事の時は朱(赤)の蠟燭を使って頂くことを奨励しています。改めて色の違う蠟燭を使うことで、「今日という日は大切なご縁をいただいた日である」ということを確かめて頂くことが出来るのではないのでしょうか。

このように蠟燭は様々な儀式法要によって使い分けをしています。法灯明としての意味がある蠟燭を通して、聞法生活を大切にし、念仏を申すことが願われ続けてられているのだと思います。





門徒のおしごと
さっぽろジンギスカン十鉄

北海道のお肉料理といえばジンギスカン。今回はすすきので店を構える「さっぽろジンギスカン十鉄」を紹介する。2005（平成17）年に創業し20周年を迎える十鉄は、現在、「本店」と「6条店」の2店舗で営業している。店名の十鉄は某時代劇小説の軍鶏料理店からのインスパイアで名付けられ、「本店」の店内も江戸時代の町人街の食事処をイメージされている。広々とした店内には大きなテーブル席やカウンター席が設置され、お1人様から団体まで対応出来る。一方、2年前に開業した「6条店」はモダンな空間で木の

ぬくもりが感じられるテーブル席、カウンター席、半個室が用意されている。オーナーの中野忍さんはどこよりも安く新鮮で美味しいお肉を食べて頂きたいと、オーストラリア産のサフォーククロスを独自のルートで仕入れ、お客に提供している。メインの厚切り生ラム肩ロースは柔らかく、七厘焼と秘伝のたれで味わって頂きたいとのこと。その他にもお得なセットや単品メニューが用意されている。店内ではクロークの用意もあり、煙を気にせずジンギスカンを楽しめるお店である。

さっぽろジンギスカン十鉄 6条店

札幌市中央区南6条西3丁目3-6
東亜会館1階
TEL (011)212-1029
営業時間 月～日 16時～23時
定休日 不定休

さっぽろジンギスカン十鉄 本店

札幌市中央区南7条西5丁目1
（南7条通り南向き）
TEL (011)551-1011
営業時間 月～日・祝日 17時～24時





札幌大谷幼稚園

あたたかな心の花を咲かせよう！

5月、今年も北海道の本格的な観光シーズンに向けて、北海道の玄関口となるJR札幌駅南口広場の花壇の花植えが行われました。この活動は、札幌駅周辺の企業等17社で構成されている「札幌駅花の会」による50年以上続く恒例行事で、国内外から訪れる多くの方々へのおもてなしの気持ちを表すために毎年美しい花壇を整備しています。

本園とは20年以上に渡って連携・交流を継続してきた活動で、本年度の「初植え込みのセレモニー」にはさくらんぼ組・りす組（2歳児）が保護者の方々といっしょに、おたにっ子を代表して参加しました。

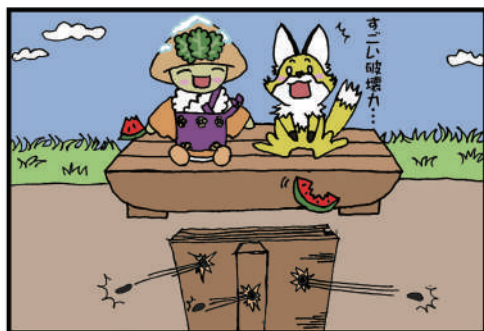
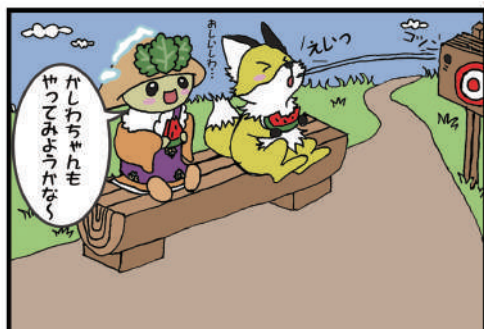
札幌駅に到着した子どもたちは、札幌駅さんから特別な配慮をいただき、さっそくJRタワー18階展望室からの札幌市全域の壮大なパノ

ガひわちゃんのゆる〜い日常



第4話

秘技! たねとぼし



ラマを見学、「すごーたかいね!」「ちっちゃなでんしゃも、はしってる!」と貴重なワクワク体験を積みまけていただきました。

その後、牧歌の像の近くの花壇に向かい、ペゴニア・ペチュニア・マリーゴールド等の色とりどりの花の苗に、さあいいよ初植え込みの開始!「ここに、うえてもいい?!」「花に土のおふとんをやさしくかけてあげてね」札幌駅のみなさんや保護者の方々、先生たちといっしょに植え込みを進め、見事成功!「子どもたちの小さな手で、一生懸命植えてくれた花は、札幌を訪れてくれるたくさんの方々にも、あたたかな心の花を咲かせてくれるでしょう!」と駅長様が伝えてくださいました。

札幌大谷幼稚園 園長 渡邊 元



法話

平等なるいのちの呼び声

私たちはお念仏を申すときに「ナンマンダブツ」と称えます。そのお念仏を漢字で表すと「南無阿弥陀仏」と書きます。「南無」は「帰命」、すなわち「命に帰る・命に触れてほしい・命を感じてほしい」というような意味を持ったとても大事な言葉です。

では何に帰命するかと言えば、それは「阿弥陀」です。「阿弥陀」は「無量寿」とも言い、量ることができない「いのち」を指します。この「いのち」は皆さんの命を支え、また私の命もあなたの命も全部包み込んでいる「いのち」です。私たちはその「いのち」を捉えることができないので、「阿弥陀仏」の成就された願いが私たちに知らしめて下さっています。「仏」とは「来るが如く」と書く「如来」を意味します。今ここに量りしれない「いのち」が「来るが如く」広がっているのです。その「いのち」が「帰命無量寿如来」としてあるのです。

『正信偈』には親鸞聖人が感得したお念仏の感動が現れています。親鸞聖人が偈前の文に「仏恩の深遠なるを信知して」というように仏様の恩がどれほど深く、遠くからこの私にまで届いているのかということに今気がつき、それが「南無阿弥陀仏」のお念仏として私にはたらいでくさっていたという感動です。そして「無量寿」すなわち「いのち」は生まれがバラバラでも、どんな人にも「平等」にはたらく、「ひとつ」であるということを教えてくれます。

このことを先月私のお寺の永代経法要に来てくださった亀谷亨先生はもっと具体的に「どんな人も軽んじないということが仏様のお心です」と教えていただきました。私たちはどうでしょうか。罪を犯した人を軽蔑したり、噂話をして他人を軽んじることがありませんか。どんな人も軽んじないということが仏様の願いであります。

しかし、それは人間の目標として掲げるものではないと思います。「いのちの平等」は目的ではなく、「いのち」からの呼びかけです。私たちは「いのち」から呼びかけられていながら、それに背く自己の問題を見逃してはいませんか。人を批判し、見くびり、利用し、都合でしか見ない自分を見落としていませんか。どんな人も軽んじないという仏様の願いが聞こえた者には、その願い通りに生きることができない自分の身の事実が見えてくるはずだと思います。

身勝手な自分は身勝手なまま

私たちは仏法を聞いて感動することがあっても、「罪深い自分」を見落としてしまいます。仏法には自分はどうにもならない存在であることを教えらるのであって、少し仏法を聞いたからといって「気がつきました。わかりました」と自分

に握り締めるならば、本当に手は合わさらないでしょう。そのような人は仏様が必要と考えるのでしょうか。実は仏法を聞いても私の本性は全く変わらないのです。

私の住んでいる旭川の隣町にある東川町のお寺に井田ツルさんという方がおられました。ツルさんは周りの各お寺にいらっしゃるご婦人方と話を交わしていける場所が欲しいと願ひ、婦人連絡協議会という場を開き、その初代会長になりました。

実はツルさんは若い時に息子さんをひき逃げされて亡くされた過去を持ちます。そして怒りと恨みと悲しみにさまよう毎日を送っている時、「こんなこととしてたら駄目だ」と住職から仏教の話しを聞かされ聞法するようになられたそうです。ある時、熱心に聞法されている方から「あんた、その犯人を拝まにゃ」と言われました。ツルさんはその言葉に反感を抱いたものの、その言葉が心に引っかかっていたそうです。

そしてひき逃げした犯人と出会う夢で「ご免なさい。長い間ご苦労かけて申し訳ありません」と言ったそうです。そこからツルさんの歩みが始まりました。歩みが始まったからといって気持ちがすっきりするわけではありませんでしたが、仏法を聞かずにはいられなく、住職の勧めもあり多くの聞法者と出会い仏法を聞かされ続けられました。「どうにもならん私」と出会い続けられたそうです。仏法を聞いても人間の根っ子は変わることもなく、身勝手な自分は身勝手なままです。死ぬまで変わらない。しかしそのことをいつも教えられている。気付かせてくださっている。そのはたらきを大事に頂くのです。

命ある限り「ナンマンダブツ」

「末代無智」の『御文』^{おくみ}に「罪惡深重」^{ざいあくしんじゆう}とありますようにとても自分では解決しようのない自分をそれを「仏たすけたまえ」という思いが本当に心に留まり決定されたのであれば、いつでもどこでも命ある限りお念仏申して下さい。心の中だけではなく、口に出して「ナンマンダブツ」とお念仏させて頂く。

それが浄土真宗の先輩方から私たちにまで届けられた真宗門徒の聞法生活だと思えます。お念仏は様々な御縁から起き、生活の中で伝わってきた上に「帰命無量寿如来」として届いている。仏様は「南無阿弥陀仏」となって私たちまで平等に呼びかけてくださっているのです。念仏申し聞法させて戴くしか私たちにはないのです。



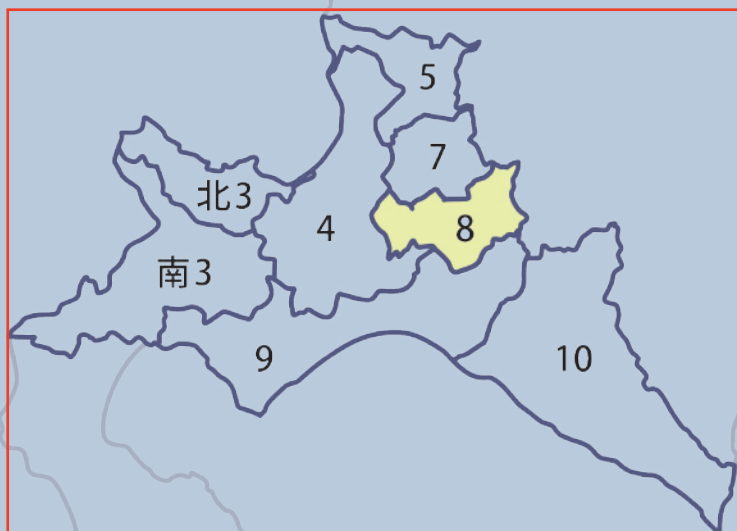
伊藤 孝順 (いとう こうじゅん)

旭川市 昭法寺

本稿は2025年4月の
北三条支院婦人会定例法座の
法話要旨です。

無盡蔵

崇敬区だより



光明寺の太子像

太子講が開かれ、聞法に勤しむ門徒たち

当寺の本堂には「聖徳太子二歳像」が安置されている。この太子像は1923（大正12）年、当寺の在所する栗山町の中越懇話会（富山県人会）の有志が富山県瑞泉寺に金百円の寄進をして像の下付を願い出たことで25（大正14）年に当寺に迎えることとなった。

瑞泉寺は1879（明治12）年に本堂・太子堂が全焼し、その再建の助けとすべく近在や地方巡回を行っていた。栗山町は北陸からの入植者が多く、その縁もあって北海道巡回の際に当寺門徒の富山県人会が中心となって寄進を行った。太子像を迎えたのちに太子講が発足され、聞法・奉賛が行われていくようになった。

当初は現在と同じく本堂に安置してあったが太子堂建立の機運が高まり、1952（昭和27）年に当寺の境内地に太子堂が完成し落慶法要を



行った。その後2008（平成20）年に太子堂は老朽化によって解体され、太子像は再び当寺の本堂に安置された。像を迎え入れ、堂宇を建立した先人たちの思いを太子像は変わらぬその姿で私たちに伝えていく。

小さい頃の私はなぜ太子像・太子堂が境内地にあるのかわからなかった。月に1回程聞法会が開かれているのを見てはいたが、正直「太子堂がなければもっと広く境内地をつかえるのに」などと感じていた。しかし成長し学びを深める中で親鸞聖人の生涯や太子和讃にふれ、親鸞聖人が聖徳太子をどれほど大事にしているのか感じ考えを改めることができた。「和国の教主」や「大慈救世聖徳皇 父のごとくにおはします 大悲救世観世音 母のごとくにおはします」という表現からわかるように、聖徳太子を日本における釈尊のような存在と仰ぎ、観音菩薩と並べて記すほど深く、そして篤い畏敬の念を抱いていたことがうかがいしれる。

様々の縁によって本堂に安置してある太子像、それを迎えこここまで伝えられてきた思いを私もまたのちの世代に伝えていきたい。



第8組

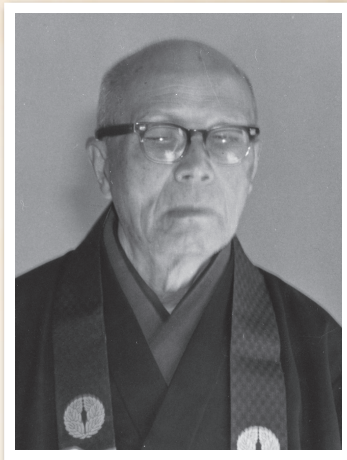
光明寺 達昌哉

連載企画「前に生まれん者～近代の教学者たち～」

法藏魂に依る曾我教学

曾我 量深

曾我量深は明治から昭和にかけて活躍した真宗大谷派の僧侶である。伝承されてきた真宗の教説を独創的に受け止め直し、清沢満之の学統を継ぎ近代真宗学を確立した。その教えは曾我教学として親しまれている。



曾我 量深（大谷大学より提供）

教学の振策

1899（明治32）年、真宗大学を卒業した量深はそのまま研究院へ進む。この頃から『無尽燈』という雑誌への掲載を中心に量深の思索が公の論考として発表されるようになり、宗教界に名を広めることとなった。

疑謗を縁として

清沢満之の弟子としても有名な量深だが、はじめは満之を支持する一派から一定の距離を保っており、時には積極的に疑問や批判を投げかけていた。しかし、とある仏教徒の懇談会において満之の「唯自己の罪惡と無能とを懺悔」する姿に深い感銘を受け、生きた仏教者として満之を支持していくこととなる。

真宗大学への尽力

宗門の危機的な財政難から、量深は研究院生の立場で嘱託教授を命じられ教鞭に立つ事となる。しかし、その事を快く思わない者も多く、大学内で騒動があり事態を鎮めるため満之が学監を辞任すると、量深ら多くの若手たちも後に続き辞職した。その後も量深は激動する時代に振り回されながら幾度となく教授の就任退任を繰り返し、宗門の教学発展に尽くしていくのである。

『歎異抄聴記』

1941（昭和16）年、真宗大谷派の最高学階である「講師」に就任すると、翌年、東本願寺安居講者に任命され、『歎異抄』を講じた。これが後に『歎異抄聴記』として出版され、今尚、真宗僧侶にとっての大切な必読書となっている。

「信に死し、願に生きよ」

1961（昭和36）年、宗祖の七〇〇回御遠忌記念講演会では、善導大師の「前念命終、後念即生」という言葉に対する宗祖の「本願を信受するは、前念命終なり」という受け止めに「信に死し、願に生きよ」と、自らの言葉に題し講演した。

その後も「往生は心にあり、成仏は身にあり」を一つの定型句とし、晩年に至るまで、迷いの人生を超えて弥陀の本願に生きる者へと促し続けた。

曾我教学は生きた仏教として現在まで受け継がれているのである。

曾我 量深（1875～1971）

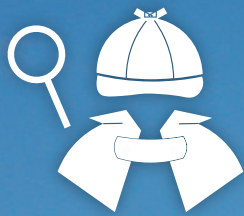
新潟県西蒲原郡味方村（現、新潟市南区味方）出身

円徳寺、富岡量導の三男として生まれる

院号法名は「無極院釋量深」

真宗大谷派講師、大谷大学学長、同大学名誉教授

著 / 教区駐在教導・宇都宮 力



すすきの探訪ツアー

すすキノといっても、どこからどこまでが薄野といえるのだろうか。例えば道警の管轄では東西が西 2～6 丁目の南北が南 3～7 条だが、南北は 8 までで、東西は西 2～5 だ。いや広義では 1～9 であるなどの意見もあり、実は区々なのだ。

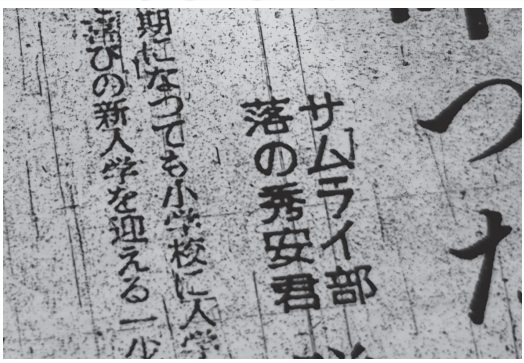
そもそも薄野なるものは、黎明期の札幌に開拓使が設けた遊郭の固有名詞であり、それは土塁で囲われた極々小さな敷地だったのだ。遊郭に付随し営みを始めた人々の暮らしが今日の薄野を形成しているので、線引きをする必要も余りないのではないだろうか。



▲豊平橋



▲大正10年頃の「6番地」にて細民統計調査の様子。
出典：郷土史豊平地区の140年



▲昭和26年3月31 北海道新聞

野原の中に建てられた掘立小屋の女郎屋でも遊郭と名付けば其れなりの商売が成り立ち、上手く当たれば億万長者にもなれるとあれば、郷里を捨てても新天地に賭ける者が集まる。そうして街の体をなした薄野だが、いつの時代でも貧困から抜け出せない者たちも一定数はいるものなのだ。

寺や墓が出来る前は、死者の遺体を包んだ^{むしろ}藁を剥いで売捌く者がいたそうだ。売れる物なら、何でもいい。売り物を見つけては銭に替えるのが商売なのだ。

俗にいう「川向こうの人」と呼ばれる人々は、ある程度の集落なら普通に存在するが、札幌では「6番地の人」や「サムライ部落」などと呼ばれていた。

6番地は日清戦争や第一次世界大戦後に不況の影響を受けた人々が、豊平3条1丁目6番地辺りの河原に、掘立小屋を建て住み着いた人々だ。

第二次世界大戦後には河原の住民が更に増え、彼らが火鉢を片手に鉄屑を拾って歩く姿を侍と揶揄しサムライ部落と呼ぶようになったのだ。そうした人々の生活の主な拠点も、やはり薄野であった。

偶々知り合った老人が小学生の頃に6番地の子と同級生だったとの事。不謹慎にも思ったが、筆者は耳を傾けずにはいられなかった。

(次号へ続く)



著 / 民衆史研究家 石川圭子

共生

アイヌ民族文化財団

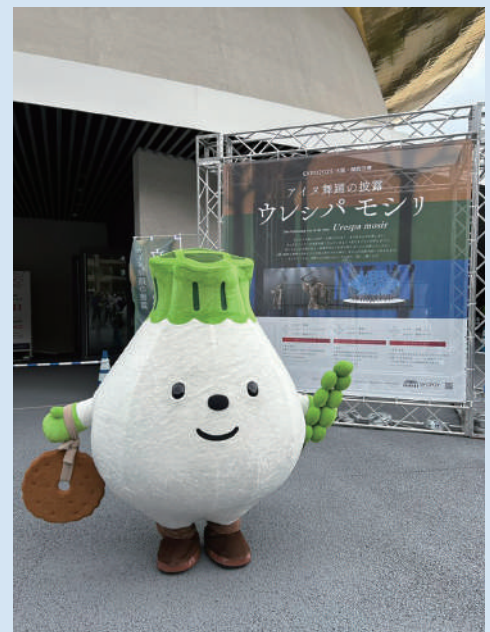
理事長 常本 照樹



いま大阪では「大阪・関西万博」が開かれています。「愛・地球博」以来20年ぶりの日本での国際博覧会開催であり、万博史上最多級の参加国・地域が参加していることでも注目されています。5月17日には220人余のアイヌの人々による群舞が、6月10～12日にはアイヌ工芸品の展示が行われ、多くのお客様に好評をいただきました。

日本が初めて万博に参加したのは1873年のウィーン万博でした。日本庭園や神社を造り、浮世絵や工芸品を展示してヨーロッパのジャポニスムに火をつけました。その中には北海道の物産として出品されたアイヌ民芸品もありました。その一部は万博終了後にベルリン国立民族学博物館に寄贈され、日本に戻ったものは現在の東京国立博物館に収蔵されています。

ウィーン万博から150年を記念し、大阪・関西万博に合わせてこれらのアイヌ・コレクションを「開館5周年記念 ウィーン万国博覧会とアイヌ・コレクション」と題して、ウポポイの国立アイヌ民族博物館で7月5日から8月31日までと9月13日から11月16日までの2期に分けて展示いたします。ベルリンと東博の万博コレクションがかつてない規模で集結する本展では、江戸から明治に変わる頃のアイヌの生活を知る貴重な機会を提供するとともに、陶磁器や漆器などの万博出品も合わせて展示し、日本の伝統的な美術工芸品も紹介します。



▲大阪万博会場

実は、ベルリンだけでなく、欧米の主要な博物館は多くのアイヌ・コレクションを収蔵しています。これらの多くは明治前後の交錯の中で海外に流出したもので、アイヌの先人の貴重な宝であるとともに日本の豊かな文化の証です。国立アイヌ民族博物館では、これらの海外コレクションの里帰り展も開催していきたいと考えています。



年間行事表 7～9月



7月		8月		9月	
1日(火)	暁天講座 6:30～ 本堂 狐野秀存(元大谷専修学院学院長) 山鼻支院婦人会定例 13:00～ 相河朋昭(芦別市 光明寺)	1日(金)	山鼻支院婦人会定例 13:00～ 別院職員	1日(月)	山鼻支院婦人会定例 13:00～ 亀谷 哲(余市町 即信寺)
2日(水)	暁天講座 同上 札幌婦人会定例 13:00～ 研修室 狐野秀存(元大谷専修学院学院長) 豊白支院婦人会定例 13:00～ 相河朋昭(芦別市 光明寺)	2日(土)	札幌婦人会定例 休会 豊白支院婦人会定例 13:00～ 別院職員	2日(火)	札幌婦人会定例 13:00～ 研修室 川原興文(旭川市 泰巖寺) 豊白支院婦人会定例 13:00～ 亀谷 哲(余市町 即信寺)
3日(木)	暁天講座 同上 現来寺支院婦人会定例 同上	3日(日)	現来寺支院婦人会定例 同上	3日(水)	現来寺支院婦人会定例 同上
4日(金)	北三条支院婦人会定例 同上	4日(月)	北三条支院婦人会定例 同上	4日(木)	北三条支院婦人会定例 同上
5日(土)	円山支院婦人会定例 同上	5日(火)	円山支院婦人会定例 同上	5日(金)	円山支院婦人会定例 同上
6日(日)	北支院婦人会定例 同上	6日(水)	北支院婦人会定例 同上	6日(土)	北支院婦人会定例 同上
8日(火)	ひがほん暮らしの朝市 10:00～14:00 境内 開基現如上人御命日法要 13:30～ 本堂 渡辺 浄道(別院職員)	8日(金)	ひがほん暮らしの朝市 10:00～14:00 境内 開基現如上人御命日法要 13:30～ 本堂 佐竹 祐(別院職員) おつとめ教室 15:00～ 大広間 札幌別院職員	8日(月)	ひがほん暮らしの朝市 10:00～14:00 境内 開基現如上人御命日法要 13:30～ 本堂 館 行成(別院職員)
11日(金)	おつとめ教室 15:00～ 本堂 札幌別院職員				
12日(土)	大谷婦人会定例法座 13:00～ 本堂 武田龍太郎(当別町 大成寺)	12日(火)	大谷婦人会定例法座 休会	12日(金)	大谷婦人会定例(報恩講)法座 13:00～ 本堂 金石晃陽(蘭越町 光福寺) おつとめ教室 15:00～ 大広間 札幌別院職員
		13日(水)	孟蘭盆会 13:30～ 札幌別院本堂	13日(土)	親鸞講座 15:00～ 大谷ホール 小泉元瑞(江別市 瑞雲寺)
		14日(木)		14日(日)	仏教講座「暮らしの中の仏教」 14:00～ 大谷ホール 中西志香(中札内村 同朋寺)
		15日(金)			
		16日(土)			
19日(土)	親鸞講座 15:00～ 大谷ホール 小泉元瑞(江別市 瑞雲寺)				
20日(日)	仏教講座「暮らしの中の仏教」 14:00～ 大谷ホール 中西志香(中札内村 同朋寺)	20日(水)	お焚き上げ法要 14:00～ 本堂	20日(土)	秋季彼岸会 13:30～ 本堂 小川如俊(江別市 大恩寺)
		22日(金)	おつとめ教室 15:00～ 本堂 札幌別院職員	21日(日)	
				22日(月)	
				23日(火)	秋季彼岸会 13:30～ 本堂 酒井 智(南富良野町 恵光寺) ※無量寿堂総経 (勤行後、無量寿堂に於いて)
		24日(日)	ひがほん暮らしの朝市 10:00～14:00 境内		
25日(金)	おつとめ教室 15:00～ 本堂 札幌別院職員			26日(金)	おつとめ教室 15:00～ 本堂 札幌別院職員
27日(日)	ひがほん暮らしの朝市 10:00～14:00 境内 宗祖親鸞聖人御命日法要 13:30～ 本堂 皆田法士(札幌市 清風寺)	27日(水)	宗祖親鸞聖人御命日法要 13:30～ 本堂 吉田 敦史(恵庭市 島松寺)	27日(土)	宗祖親鸞聖人御命日法要 13:30～ 本堂 佐々木順道(名寄市 光徳寺)
28日(月)	宗祖親鸞聖人御命日法要 同上	28日(木)	宗祖親鸞聖人御命日法要 同上	28日(日)	ひがほん暮らしの朝市 10:00～14:00 境内 同上



7月1日より
「あおさじ50日参拝運動」を始めます

永代経・寄贈披露

尊い浄財及び寄贈を賜りました。
ここに披露申し上げます。

○永代経

【本院】

山田 光秀 様 中央区 山川 寛之 様 西区

団体参拝

お参りいただきありがとうございました。

5月12日 四国教区青年会 様
5月14日 第4組札幌第三地域研修会 様
5月26日 九州教研久留米分室 様
6月4日 岡崎教区住職研修会 様
6月11日 名古屋教区解放運動推進要員研修会 様
6月19日 名古屋教区信光寺女性会 様
6月23日 帯広別院 様



表紙紹介

Title ラベンダーの季節 幌見峠 札幌
Photo 菊池 恵子

うらぼんえ 盂蘭盆会

◆日にち: 8月13日(水)～16日(土)

◆勤行 午後1時30分～

◆場所: 札幌別院本堂

※ご法話はありません。

お盆参りの際は、本堂のご本尊にも手を合わせましょう。

「お墓・納骨壇管理志」は郵便振替用紙を郵送致しますので、そちらをご利用下さい。
また、期間中は特にお昼前後が混み合いますので、ご留意下さいますようお願い申し上げます。

秋季彼岸会

◆日にち: 9月20日(土)～23日(火)

◆時間: 全日13:30～

◆場所: 札幌別院本堂

◆講師: 20日～22日 小川如俊(江別市 大恩寺)

23日 酒井 智(南富良野町 恵光寺)

▶無量寿堂総経 23日 勤行終了後 無量寿堂に於いて

無量寿の会

札幌別院にて毎月2回13時からお寺で
俳句を詠んでいます

講師 荒松青嶺先生に教わります

札幌別院機関紙 令和7年7月掲載句
独り来て供へる花と入道雲 山田 正雄
これよりは神の庭らし雲の峰 三浦 伸子
若き僧修行は続く雲の峰 齊藤 和加
むくむくと積乱雲や雨兆す 西田美智子
幾度も姿変へゆく雲の峰 置田 正子

テレホン法話 (011)511-1313

7月前半 人としての道
老松 雅

7月後半 浄土を生きる
相河 吉秀

8月前半 領いて生きる
竹内 彰

8月後半 死んだらしまい?
森口 達

『つきあかり 東別院テレホン法話集』より

編集後記

先月から境内で「ひがほん暮らしの朝市」が始まった。札幌別院の存在を周知すること、多くの方にお寺に足を運んでもらうきっかけにと始まったこの企画。

先駆けて10年以上前から「東別院暮らしの朝市」を行っていた名古屋別院を視察したのが今年2月。その時、担当者に「お寺の関係者だけで話し合っているのは絶対成功しない」とアドバイスされた。

幸い、その運営の代表者が北海道にも縁があり、今回の朝市の運営にもご協力いただけたこととなった。やはりノウハウがある強みは大きく、初回から13店舗が出店。集客も我々の想定以上だった。

今回感じたのはインスタグラム等のSNSの影響力の大きさだった。私たちが宣伝したことでも来場した人よりも、出店者がSNSで発信した繋がりで来場した人の方が圧倒的に多かったように思う。

何よりも嬉しかったのは、この朝市をきっかけに人と人との繋がりの輪が広がっていくのを感じられたことだ。今後規模を拡大しながら「ひがほん暮らしの朝市」が札幌に根付くことを願う。

(道)



<https://ohigashi-sapporo.jp>



東本願寺 札幌別院

〒064-0807 札幌市中央区南7条西8丁目290

TEL.011-511-0502

E-mail. ohigashi@abeam.ocn.ne.jp

地下鉄南北線「すすきの」駅で下車
→市電外回り「東本願寺前」徒歩1分

WEBは▶
こちらから



LINEスタンプ



さっぽろ東本願寺 2025 7月号No.241
(発行人) 真宗大谷派札幌別院
(代表者) 坂田智亮